

教育の成果と評価 (助産学科)

1) 学修成果

(1) 平成 28 年度 単位修得状況

① 学生動向 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

25 回生	入学者数	退学者数	休学者数	卒業延期	卒業者数
	25 名	0 名	1 名	1 名 (単位未修得)	23 名

(2) カリキュラム運用状況

学則に則り、下記の通り予定通り実施した

* 授業 (講義・実習) 32 単位 (945 時間) 計画通り実施

* 行事・特別講義・特別教育活動・プロジェクト学習：年間計画に則り実施

* H24 年度カリキュラム改正後 5 年が経過し、周産期医療の変化に応じた助産師を育成するための見直が必要、特にハイレベルの強化が必要だが、過密過ぎないように要調整。

(3) 国家試験プロジェクトの概要

* 模擬試験：業者模試 5 回/年、国試過去問題・模擬試験 2 種 合計 20 数回/年

* 特別補講：町谷講師 (12 月)、千代講師 (1 月) 遺伝学、細見医師 (1 月) 周産期医学

* 教員プリセプター制：12 月～成績下位 & 変動者 6 名に対し教員 4 名で担当

(4) 助産師国家試験の概要と結果

合格基準
* 問題数 = 午前 55 問 (内状況 15 問) ・ 午後 55 問 (内状況 20 問) ・ 合計 110 問
* 点数 = 午前 70 点 ・ 午後 75 点 ・ 合計 145 点
* 合格基準点 = 絶対評価基準 <u>87 点以上 (60%以上)</u>

回数	第 96 回	第 97 回	第 98 回	第 99 回	第 100 回
全国受験者数	2113 人	2079 人	2037 人	2008 人	2053 人
全国合格者数	2072 人	2015 人	2034 人	2003 人	1909 人
全国 合格率	98.1%	96.9%	99.9%	99.8%	93.0%
回生	21 回生	22 回生	23 回生	24 回生	25 回生
本校受験者数	20	24	24	25	23
本校 合格率	100%	100%	100%	100%	100%

2) 学生支援

(1) 就職支援 6/30 法人就職説明会実施

法人本部看護部、2 病院看護部、周産期責任者、先輩助産師、人事課より、就職にあたり法人・施設概要説明とメッセージ、先輩助産師との交流にて情報交換

(2) 学外研修会・ボランティア活動の案内

* 助産師会、看護協会、全国助産師教育協議会などの学生も対象の研修案内を実施

* 女性を取り巻く課題に対する NPO 活動の紹介…ピンクリボン・オレンジリボン等

(現時点ではカリキュラム進行上参加がが困難な状況だが、卒業後の課題に繋がられるように指導していく)

(3) ベルランド看護学科学生との交流 (内部進学希望者への支援)

* 9/24 オープンキャンパス参加 (7 名)

* 9/10 両親学級見学 (15 名)

3) 教育活動

(1) 授業評価について

①平成 28 年度授業評価(講義)結果

講義科目 16 科目、担当講師のべ 46 名(外部講師・専任教員)に、授業評価を実施し、科目分類別に 4 段階評価の平均をグラフ化した。その結果、全科目の平均において 3.0 以上の結果が得られ昨年度より 0.2-0.3 ポイント UP であった。平均値が比較的低いのは“この科目の為に学習をした”の項目で、それ以外の項目は全て 3.4 点の評価であった。学生が自律して学習に臨めるように指導すると共に授業計画を工夫する必要があると考える。また、4 つの科目分類「基礎看護学」「助産診断・技術学」「地域母子保健」「助産管理」においても同じ結果であり、「助産診断・技術学」の“講義テーマの明確さ”“理解を深める教材の使用”がやや高い評価であった。これは科目担当が専任教員で固定し、実技演習を含み実習に直結することも関連していると考えられる。今後もより学生が学びやすい環境を作る努力が必要である。

②平成 28 年度授業評価(実習)結果

「授業課程評価スケール-看護学実習用-」(舟島なをみ)を使用し、助産診断技術学実習の 4 科目別(妊娠期・分娩期・産褥期新生児期・継続事例)に 5 段階評価の平均をグラフ化した。全体平均は 3.5~4.0 でブロック別の偏りはなかった。各実習全てにおいて大きな差はなく、昨年度より 0.3-0.5 ポイント UP した。比較的低い項目は「オリエンテーション」と「教員看護師間の指導調整」であった。次年度への課題として取り組んでいく。実習指導については、臨地実習指導者会議での意見交換や、担当教員と随時相談したうえで実習を進めているが、学生の実習場での困難感をフォローし達成感に繋げるために、臨床と連携をとり、効果的な実習環境と指導体制を早急に整備する必要があると考える。また、実習目標や課題の設定についての評価から、目標設定や評価項目を相互理解するために、精度を高めて修正を行っていく必要がある。

(2) 卒業時到達度自己評価より

厚生労働省からの「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」の自己評価を I~IV の到達レベル別整理した。レベル I では、周産期におけるウェルネスの助産ケアの項目は高得点であったが、異常時に関する予測と家族計画指導の実践について低得点で、レベル II においても異常時の対応については低得点であった。指導のもとハリス事例の援助に意識的に同席しリフレクションによる学習効果の強化を図る必要がある。レベル III は学内演習として実施する項目で NCPR・会陰縫合演習など評価は高いがさらにファシリテートを強化し達成感に繋げ、評価の低かったセクシュアリティや出生前診断の意思決定に係る演習の工夫が必要である。また「助産師としてのアイデンティティの形成」の到達度が比較的高得点であった事は一定の評価ができると考える。

(3) 卒業時教育活動評価から

卒業生のアンケート結果から、「専門職としての認識を深め科学的根拠に基づく判断力と助産の基礎的実践力を育成している」「専門領域における知識や技術を理解し主体的に真理を追究する態度を育成している」「国家試験合格に向けた学習相談や支援をしている」等の評価が高く、「学校の科目やその他の時間の設定は無理なく設定している」「学校は学生がリラックスできる環境を整備している」「学生が進路を選択するために必要な情報を提供している」等の項目が低かった。学生は過密なカリキュラムに対する思いはあるが、専門職になる為の学習として必要だと自覚していると考えられた。このことから、教員は学生に専門職として成長して貰いたいと願って関わり、国家試験の関門をクリアできるように支援している様子が伺えた。次年度は新出題基準になるため注意していきたい。また、豊かな人間性を育み学習効果を促進する為の環境をソフトとハードの両側面から整備する課題も明らかになった。

図 (1)-①平成 28 年度 授業評価(講義)結果

4:大いにそう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

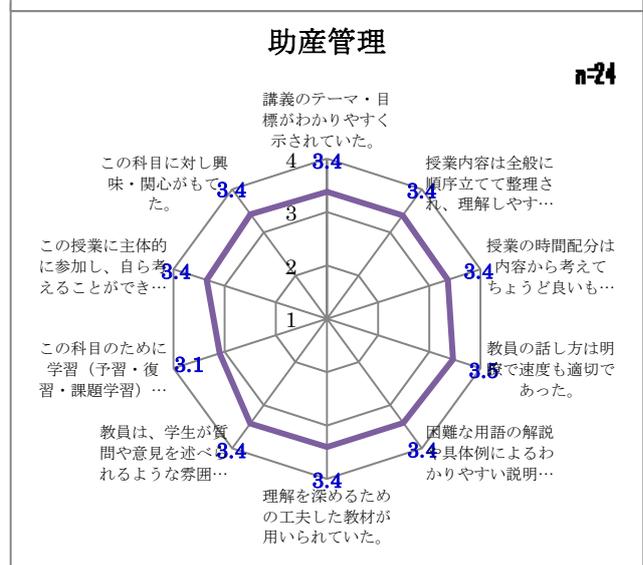
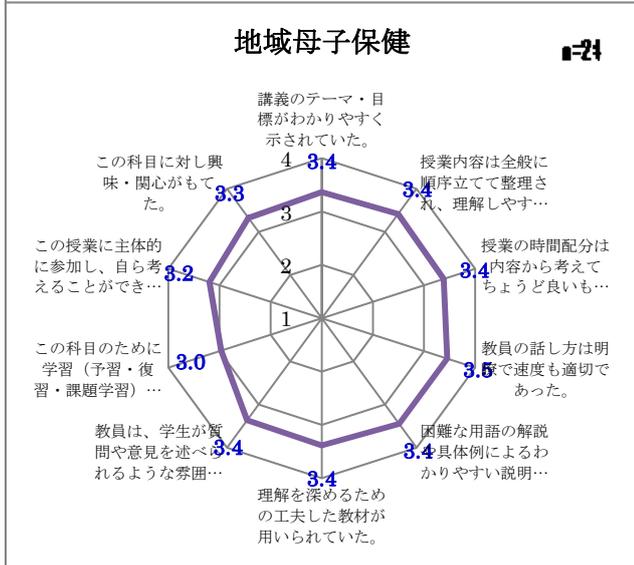
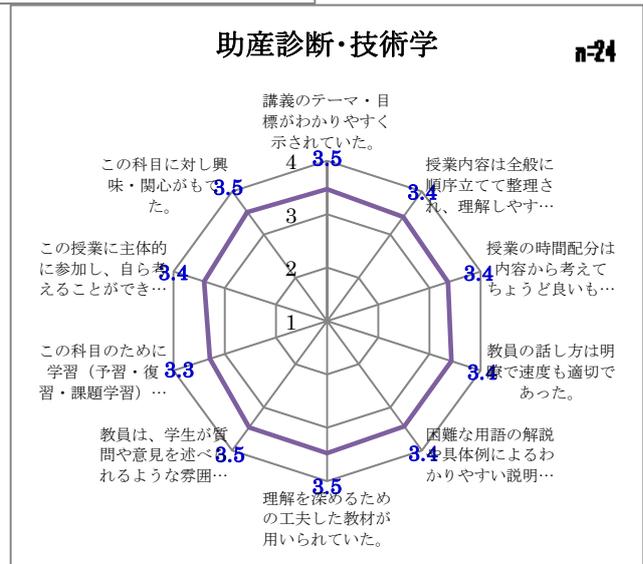
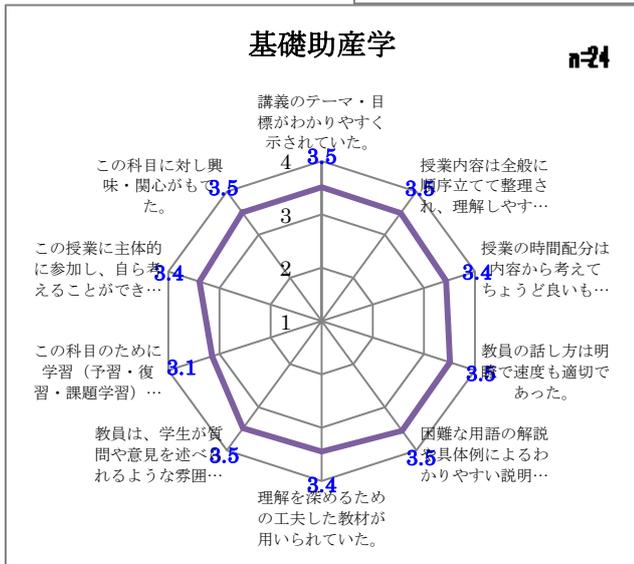
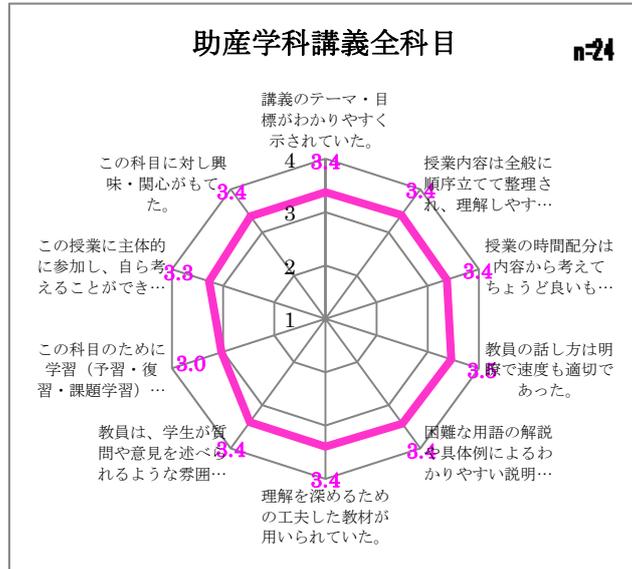


図 (1)-②平成 28 年度 授業評価(実習)結果

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

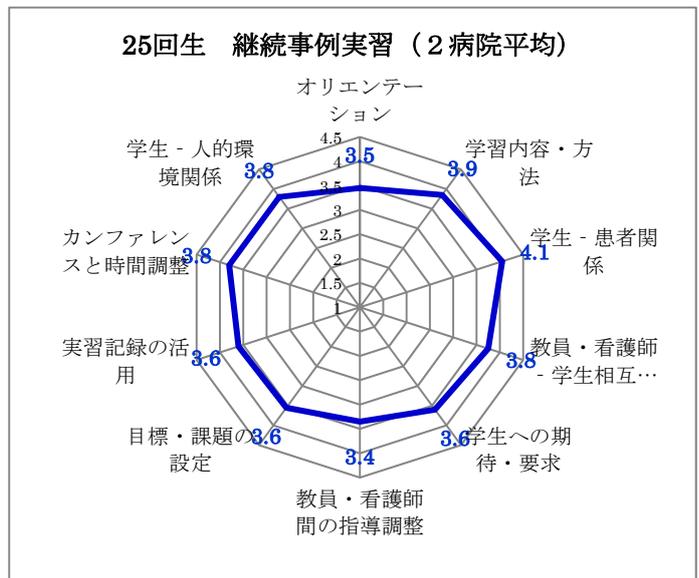
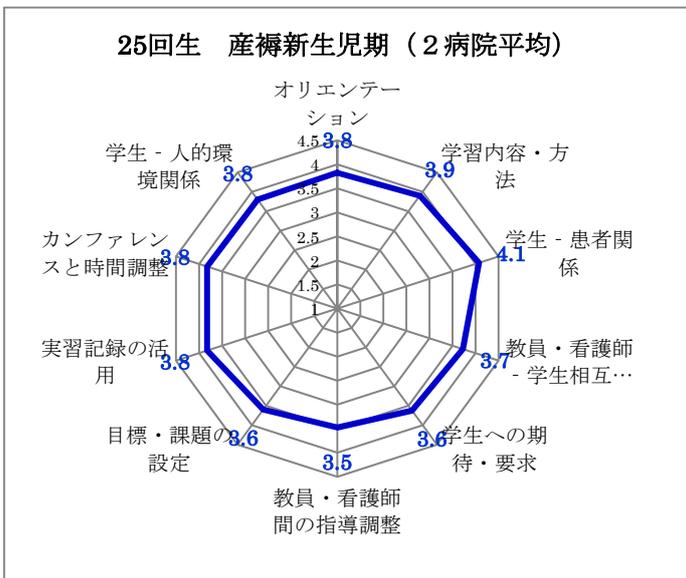
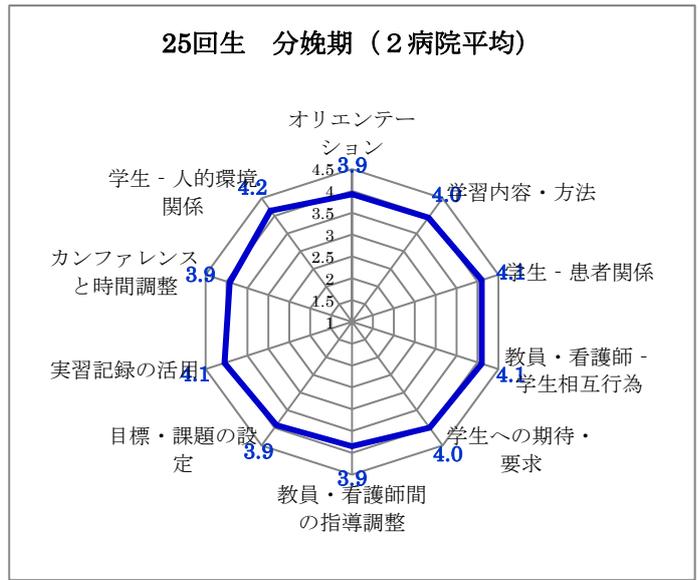
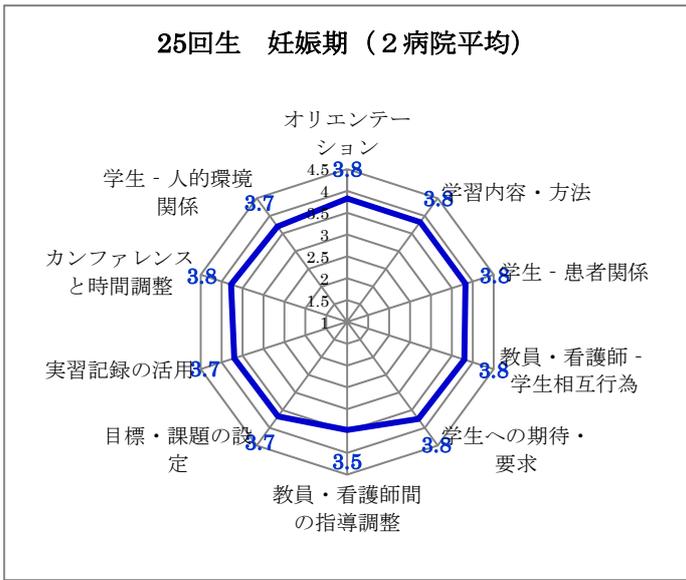
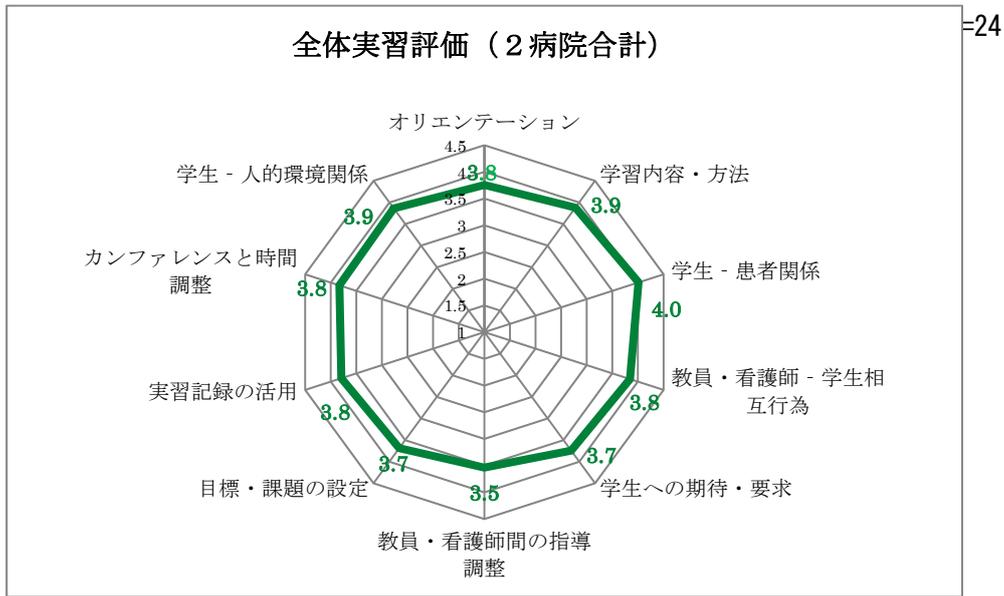


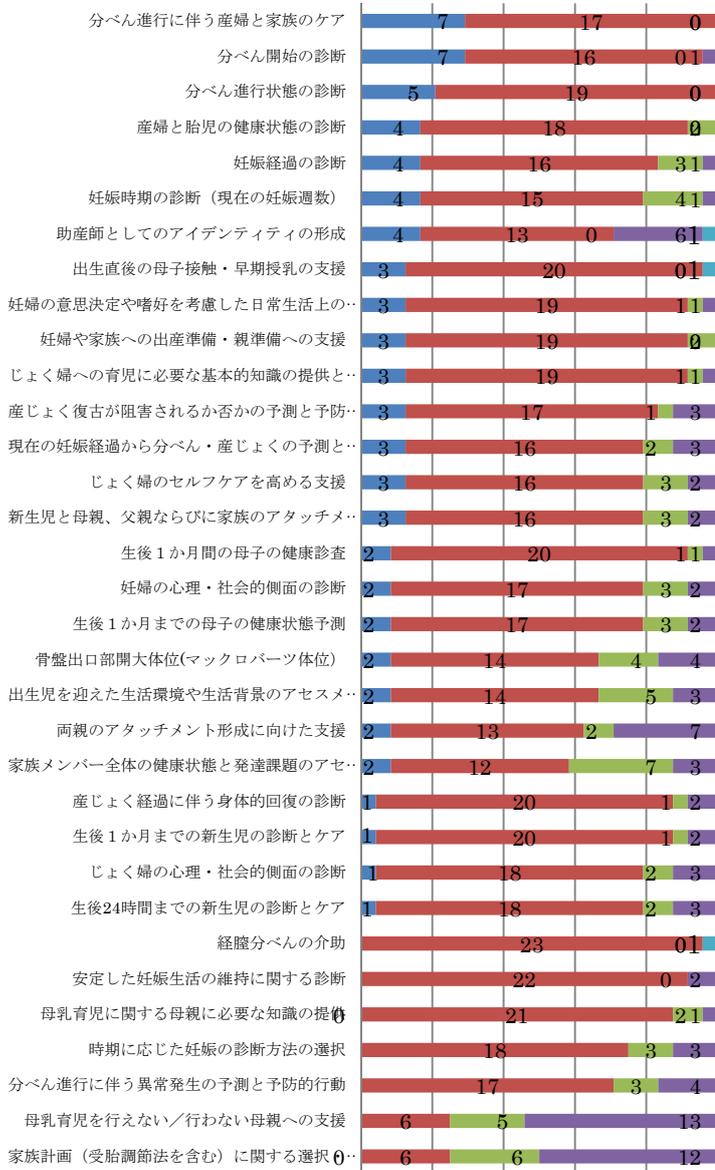
図 (2) 24 回生 卒業時到達度自己評価 (到達レベル別)

■ I 少しの援助で実施できる ■ II 指導のもとで実施できる ■ III 学内演習で実施できる ■ IV 知識としてわかる ■ NA

n=24

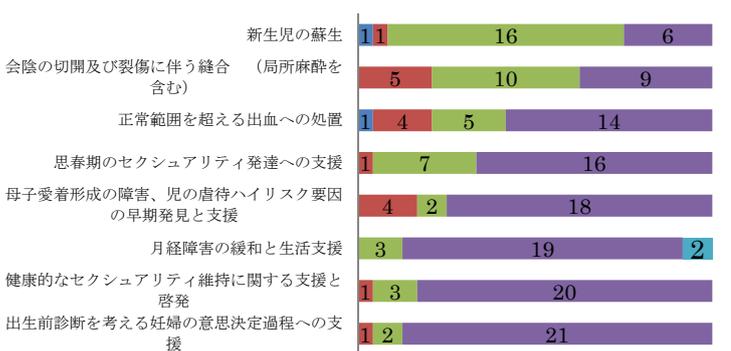
I の点数でソート

卒業時到達レベル I の項目



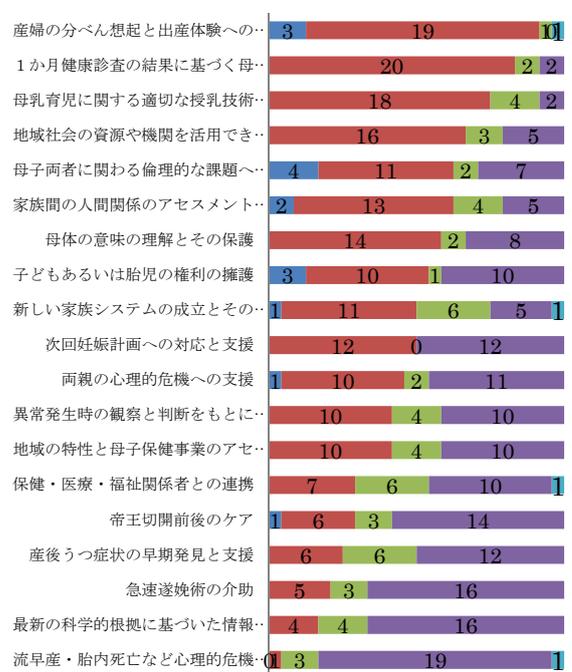
I+II+IIIの点数でソート

卒業時到達レベル III の項目



I+IIの点数でソート

卒業時の到達レベル II の項目



平均点でソート

卒業時到達レベル IV の項目

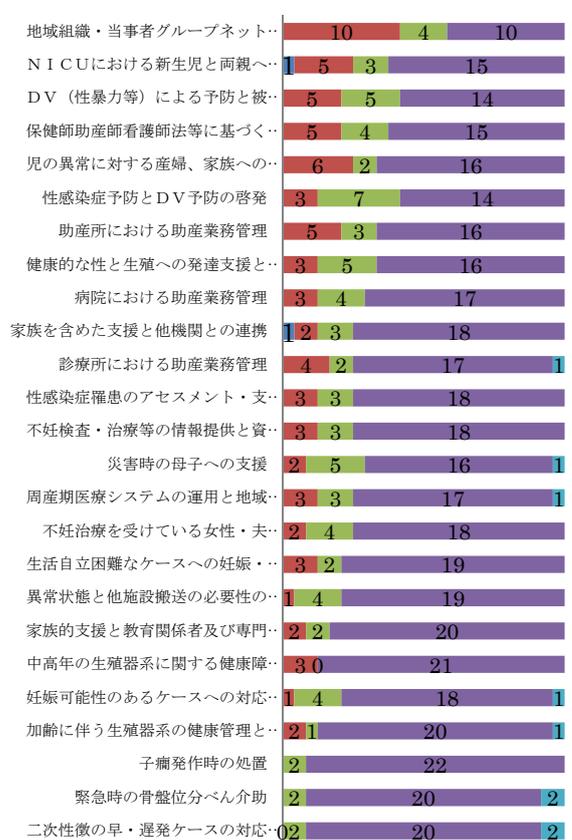


図 (2) 25 回生 卒業時教育活動評価

n=24

